

オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「平家滅亡の悲劇 建礼門院徳子」

日時 : 2022年 10月 11日

講師 : 林 和清 先生

当日参加受講生: 21名 (在籍 30名) 再視聴あり

平家滅亡により運命を180度変えられた「建礼門院徳子」の一生を「平家物語」をもとにお話しいただきました。出家された長楽寺は紅葉狩りにお薦めとお話がありました。

入内し中宮へ。そして国母になる

久寿2年(1155年)平清盛と正室時子との間に生まれます。

承安元年(1171年)12月に入内し高倉天皇の女御となり、翌年、中宮となります。

治承2年(1178年)安徳天皇を出産。出産にあたって清盛は加持祈禱を大々的に行います。平氏は栄華の頂点に上り詰め、そのことにより後白河法皇との対立が明らかになります。治承3年(1179年)平清盛が後白河法皇を幽閉し福原遷都を計画しますが、頓挫して都へ戻ります。翌年、高倉天皇が3歳の安徳天皇に譲位し、国母となります。



戦いの中へ

治承4年(1180年)以仁王(後白河法皇の子)は平家打倒を計画しますが、事前に発覚。逃走中に戦死します。

治承5年(1181年)高倉天皇、平清盛が相次いで亡くなり、平氏と後白河法皇との対立がより鮮明になります。

後白河法皇は木曾義仲の力を借りて平氏を都から追い出しますが、都での木曾軍の狼藉に手を焼き、次は源氏に木曾軍を成敗するよう助けを求めます。さらに法皇は平氏追討宣旨を下したため、平氏は賊軍に転落します。元暦2年(1185年)徳子は御蔵船で安徳天皇を伴い母二位尼(母時子)と西国に落ちていきます。

平氏軍は、一の谷⇒屋島⇒壇ノ浦へと追い詰められていき、壇ノ浦では二位尼に抱かれて安徳天皇は入水します。徳子も入水を試みますが源氏軍に捕らえられ、そののち都に戻り平家一門を弔うために出家します。今ぞ知る身もすそ川の御流れ波のしたにも都ありとは(二位尼の辞世の歌・これからどこへ行くのかと尋ねる安徳天皇にこの海の下にある都へ行くのですよと諭す)

出家後と最期

元暦2年(1185年)徳子は5月都の中心に近い長楽寺で出家します。落とした髪で刺繍した「南無阿弥陀佛」は「建礼門院落髪名号」として残されています。東山の麓での生活は以前の華やかさとは全く異なり、「平家物語」の中では“あさましげなる朽坊”と著わされています。



<建礼門院徳子像>



<京都東山・長楽寺>



文治2年(1186年)庵を聖徳太子ゆかりの大原・寂光院(左写真)に移します。後白河法皇は徳子を訪ね、再会の時の話が「平家物語・灌頂巻」に記されています。徳子は自らの生涯を振り返り語ります。それは生きながら六道すべてを味わった人生でした。

(六道とは:天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道) 建保元年(1213年)12月13日逝去されます。

「平家物語」は徳子の極楽往生をもって終わります。(担当 口村)